

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム ひじり ユニット名 1F青葉通り		
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8-26		
自己評価作成日	令和 3年 2月 17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 3月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の生活歴や価値観を尊重し、グループホームでの生活に喜びと満足を感じて頂けるように、アクティビティや イベントを通して職員、地域住民の方との交流を行っています。職員ミーティングでは利用者様を様々な方向から観察し、得られた情報を共有しチームケアとして展開しています。職員の自己研鑽においても協力体制が整っており、資格取得や外部研修も積極的に参加できる職場環境の整備に努め、参加者からの伝達講習も行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

青葉区八幡地区、広瀬川の河岸段丘に広がる閑静な住宅地に真新しい鉄筋2階建てのホームがある。地区内には、同医療法人の認知症に特化した病院「杜のホスピタルあおば」と「グループホームみたき」があり、地域との関わりは良好である。ホーム理念「自立と尊厳を尊重し、安心した生活を提供する」は、入居者の「出来ることの継続、得意なことをしてもらう」を意識した介護に取り組んでいる。職員の提案と一緒に菓子作りや紙相撲大会、ボーリング等を行い入居者の明るい笑顔に溢れている。法人病院の月2回の往診、看護師の配置、歯科医月1回、歯科衛生士の週1回の来訪等医療面での充実、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひじり )「ユニット名 1F 青葉通り」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の実現と、グループホームひじりの理念である「自立と尊厳を尊重し安心出来る暮らしを提供する」を職員間で共有し利用者様に寄り添う介護を心掛け笑顔の絶えないグループホームを目指しています。	ホーム理念は継続としている。各ユニット毎に今年の目標を定め、事務所に掲示している。入居者の出来る事はしてもらい、必ず褒めるようにし、自信を持ってもらい、誇りを持ち続けられるような支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動でもある清掃活動や雪かき等に積極的に参加しています。また、グループホーム主催イベントへの案内をさせて頂いております。	例年、町内の清掃活動や雪かきに参加し、ホーム主催のイベントの案内をしていた。今年はホームから国道48号線に通ずる上り坂の除雪を継続し感謝されている。周辺の散歩時は積極的に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招いたイベントで建物内を公開したり、利用者様とのお散歩時には地域の方々とのふれあいを通し、ご理解を得ていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での助言を参考にサービス向上に努めています。また、ご家族様とのコミュニケーションから得たご意見も反映し、サービス向上に活かしています。	今年度はコロナ禍のため、法人内関係者で偶数月に開催し、入居状況や活動状況、インシデント・アクシデントレポートの内容を議事録として保管している。但し運営推進会議委員への報告はされていない。	今後は町内会長、民生委員、地域包括職員、家族等の運営推進会議メンバーへ議事録を送るなど配布して、意見や感想を得るように工夫してもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市集団指導や八幡連携の会、仙台市主催研修会への参加で情報を得ることで、より良いケア提供の協力体制が取れていると思います。	市主催の「介護のスキルアップ研修」や「実践研修」に参加している。八幡連携の会では、他病院の先生を講師にリモート研修があり、感染症予防について参考になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会への参加、もしくは資料の回覧により周知し、拘束しないケアを正しく理解し実践しています。また、相談できる体制構築に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。「身体拘束に該当する行為」、「緊急やむを得ない場合は？」をスタッフルームに掲示している。「言葉による拘束」にも配慮してケアに取り組んでいる。帰宅願望のある方には一緒に散歩する等で対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会への参加、もしくは資料の回覧により全体に周知し、不適切なケアが無いように理解を深めています。また、相談できる体制構築に取り組んでいきます。	年2回内部研修を行っている。ケアで困った時は管理者に相談し、ミーティングで話し合うようにしている。入浴や着替え時等の身体チェックは何時も同じ職員とならないように考慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人制度に関する研修会に参加し、学ぶ機会を得ています。職員全体への伝達が出来ていないので機会を持ち展開したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様にご理解、ご納得いただけるよう説明をし、その後も積極的にお声掛けさせていただき、不安や疑問の解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様が苦情を申し立てができるよう、苦情等に関する連絡先を掲示しています。また、日頃からどんなことでも伝えられる関係性を築けるよう配慮しています。	面会が出来ない状況なので、電話で話したいと言う家族の要望に柔軟に対応している。職員の携帯電話による面会を取り入れているが、個人情報に触れる事もあり、ホームのテレビ電話を検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と話し合う機会を設け、意見を汲み取れる環境を作っています。改善すべきことは迅速に対応するよう心掛けています。	職員は毎年「目標達成計画シート」を作成し、半年毎に管理者と面談し評価している。入居者と一緒に家庭菜園をやりたいとの提案で隣の空き地に畑を作った。職員の資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から職員とのコミュニケーションを通じて、それぞれの能力を認め、その方の必要性を伝えます。役割りを明確にすることで向上心や、やりがいに繋がっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務調整をして研修会への参加を支援し、その職員が講師となり伝達講習を実施することでお互いのスキル向上に繋がっています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加することにより他事業所職員との交流を深め情報交換することで自施設のサービスの質向上に努めています。	八幡連携の会等、地域の方との交流や情報交換は、コロナ禍の為にリモートで行っている。法人の病院主催の研修会や事例報告会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とのコミュニケーションの中から、不安や困っている事は何か、どの様な要望があるのか聞き出せるように耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向けて担当ケアマネージャーと共に、ご本人、ご家族との面談時に不安、要望を聴き取り、可能な限り取り入れるよう努めています。また、入居後もご家族へこまめにお声掛けすることで良好な関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」何が必要なのかを職員間で話し合い、情報共有することで必要な支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを一緒に行うなかで、利用者様には出来る事はして頂きながら生活を送っていただいています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とはこまめに情報交換を取り合い、本人様とご家族様の絆を大切に支援しながら関係を築いていきます。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外も面会をして頂ける配慮をしています。何時でも電話等で話しが出来る環境を整えています。	面会や外出、買い物等が出来ない状況であり、定期的に友人が来訪する方も、今年度は電話で対応している。週2回訪問するマッサージ師、2カ月に1回訪れる訪問理美容師等と馴染みの関係を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮した座席配置をしています。また、アクティビティの時などは利用者様が孤立することなく参加でき支え合えるような声掛けを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の「その時」にあった生活が出来るように必要に応じ相談や支援を行うことをお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、その時々に出たご本人様の思いや要望をその時の言葉や表情から汲み取り支援に繋げています。必要に応じ職員ミーティング等で話し合い検討しています。	野球が見たいとの要望で球場に行った。塗り絵が好きとの家族からの情報で塗り絵を提供している。帰宅願望のある方がウロウロと落ち着きがない時には、声掛けし散歩に出かける等で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に生活歴の情報収集し、職員間で共有できるようにしています。入居後もご家族との情報交換をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の様子を日々観察し、体調や気分の変化への気づきを大切に、職員全員で把握するよう努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成後、ユニット会議で職員の情報共有をおこない、ご本人様、ご家族様の希望をも含めて介護計画に反映し展開しています。	3ヵ月毎にモニタリングし見直している。家族に郵送し電話等で確認を得ている。転倒骨折し車椅子になった方は、下肢筋力アップを取り入れた。「ケアプランの内容を全員で理解し取り組む」と目標に掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別介護記録に残し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその方にとって必要な事は何かを考えて柔軟に支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が望む事を最優先し、どのような事が支援出来るか他事業所相談員とも検討し支援をおこなっています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外にも医療的相談をおこない、医療法人ならではの素早い対応を心掛けています。	全員が協力医の往診を受けている。眼科等他科受診は家族対応である。歯科は月1回往診で、歯科衛生士は週1回口腔ケアのアドバイスがある。デイケアで受診している方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在籍の看護職、訪問看護師とは利用者様の状態について情報交換をおこない適切な受診が出来るよう、また、緊急時連絡もとれるように連携を取り合い支援をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換等の連携を図り、利用者様、ご家族様が安心して治療できる環境整備に取り組んでいます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時々状態をご家族と話し合い、ご本人の希望も取り入れながら対応をおこなっています。	「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に家族、本人に説明している。同時に重度化対応希望書と意思確認書を交わしている。目標達成計画で「看取り介護の研修」を行うとしており、病院看護師を講師に研修を行った。昨年1名看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員同士、急変時の対応について意見交換を行っています。今後はより実践的な動きが出来るよう訓練をおこなっていきたいと思います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行う際、近隣の方にも声を掛けています。地域町内会の防災訓練にも参加し、協力体制を築いています。	夜間想定を含み2回訓練を実施している。消防訓練の理解度チェックはされているが、避難訓練の成果・反省等の記録はない。昨年大雨の際、法人の病院まで2回避難している。非常食等の備蓄は3日分確保している。	訓練の成果・反省点等を記録し事後の訓練に反映するようにはしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重したケアをおこなっています。排泄時の声掛けはプライドを損ねないように配慮しています。声掛けには名前や苗字に「さん付け」で馴れ合いにならないようにしています。	トイレ誘導の声掛けは耳元で小声で行う。トイレではドアの外で待機し合図を待つ。入浴は同性介助に努めている。入浴準備や夕方カーテンを閉じる際は、ホールに居る入居者に断ってから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを尊重し、食べ物の希望や季節感を味わえるよう外出の機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や起床時間は本人の時間に合わせた生活のペースを大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、必要な物品があればご家族に相談し準備していただいています。それ以外にもアロママッサージやネイルケアも取り入れた支援をおこなっています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや形状に対応したメニューを提供しています。食事の準備や片付けも利用者様と共におこなっています。11月29日(いい肉の日)にはイベントを開催し仙台牛をお召し上がりいただきました。	献立作成と調理は職員が行っている。季節に合わせた栗ご飯や筍ご飯は喜ばれている。行事食、誕生祝はちらし寿司やおはぎと一緒に作ったり、ピザや寿司の出前を取るなど食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食事量や水分摂取量を記録に残し職員間で情報を共有し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをおこない、介助が必要な方には介助で口腔内の清潔保持に努めています。また、訪問歯科診療を取り入れ、専門家からの助言も職員間で情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの自立排泄を目指しています。	3割の方が自立し、夜間だけオムツ使用の方が5名いる。日中は排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄に努めている。トイレまでの経路に誘導灯を整備し、部屋の間違いや転倒防止等の安全を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳酸菌をとっていただき、腸内環境を整える取り組みを行い、排便を促すようにしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように入浴剤を入れてリラックス出来るよう対応しています。入浴の時間帯は利用者様の意に沿えるようにしています。	1日3人で週2回の入浴を基本としている。週単位で入浴剤の色を変えたり、季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯で楽しく入浴できるよう支援している。拒否の方は職員を変えて誘導したり、日時を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、休憩や睡眠をとっていただけるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報は薬情ファイルを作成し、職員が閲覧出来るよう準備しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様が得意とすることや、出来る事を一緒に行うことで生活に張り合いを持っていただけるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただく外出企画を立てたり、利用者様より話題として出た場所への外出、近所の散歩など戸外へ出かけられるよう支援しています。	季節毎の外出は中止している。ペットボトルを並べてのボーリング大会や入居者に四股名を付けた紙相撲大会では星取り表を点け、3カ月毎に表彰する等ホーム内でのレクリエーションの充実を図った。天気の良い日はホーム周辺や広瀬河原まで散歩している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、所持できるように配慮しています。職員と一緒に買い物に出掛けた時などは個人のお小遣いから支払っていただく事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望がある時は、いつでもやり取りができるように環境を整え支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りなどを利用者様にも手伝っていただき作成、掲示しています。	ホールにはテレビとカラオケがある。エアコンと加湿器で適温、適湿に保たれている。寒冷期の空気入れ替えはサーキュレーターを使用して対流を図っている。壁にはピンクの花紙と一緒に作った桜が飾られ季節を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に過ごしたり、一人で過ごす時などは利用者様に合わせた時間の過ごし方を支援出来るよう心掛けています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでいただいたり、ご本人様が落ち着いてくつろげる空間であるよう、ご家族様にも協力いただきながら職員も工夫し支援しています。	テレビやラジオ、テーブルと椅子、ソファ、仙台筆筒等馴染みの物を持ち込んでいる。家族写真やカレンダー、自作の書道や塗り絵等を飾り、思い思いの自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には誘導灯を設置し、夜間帯などトイレの場所に迷うことなく行けるように配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム ひじり ユニット名 2F定禅寺通り		
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8-26		
自己評価作成日	令和 3年 2月 19日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 3月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでの生活の中で、職員と利用者様が一緒に楽しめる行事や活動を企画し展開しています。利用者様自身が出来る事を率先して行うことでグループホームでのご自身の役割を感じ、充実した生活を送っていただいています。また、ご家族様がいつでも気軽に訪ねてくれる明るい雰囲気づくりを心掛けています。地域住民の方々との関係性を大切に、人の集まれる施設づくりを目指していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

青葉区八幡地区、広瀬川の河岸段丘に広がる閑静な住宅地に真新しい鉄筋2階建てのホームがある。地区内には、同医療法人の認知症に特化した病院「杜のホスピタルあおば」と「グループホームみたき」があり、地域との関わりは良好である。ホーム理念「自立と尊厳を尊重し、安心した生活を提供する」は、入居者の「出来ることの継続、得意なことをしてもらう」を意識した介護に取り組んでいる。職員の提案と一緒に菓子作りや紙相撲大会、ボーリング等を行い入居者の明るい笑顔に溢れている。法人病院の月2回の往診、看護師の配置、歯科医月1回、歯科衛生士の週1回の来訪等医療面での充実、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひじり )「ユニット名 2F 定禅寺通り 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の実現と、グループホームひじりの理念である「自立と尊厳を尊重し安心出来る暮らしを提供する」を職員間で共有しワンチームとして利用者様に寄り添うケアを心掛けています。	ホーム理念は継続としている。各ユニット毎に今年の目標を定め、事務所に掲示している。入居者の出来る事はしてもらい、必ず褒めるようにし、自信を持ってもらい、誇りを持ち続けられるような支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームのイベントに近隣の方を招いたり、町内会の行事には積極的に参加することで地域における当グループホームの役割を果たし日常的に交流を深めていきたいです。	例年、町内の清掃活動や雪かきに参加し、ホーム主催のイベントの案内をしていた。今年はホームから国道48号線に通ずる上り坂の除雪を継続し感謝されている。周辺の散歩時は積極的に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の散歩やイベントを通して、地域の方との交流、触れ合える機会を多く作ることを心掛けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の普段の様子やアクシデント・インシデント事例の報告及び意見交換をし皆様からの助言をサービス向上に活かしています。	今年度はコロナ禍のため、法人内関係者で偶数月に開催し、入居状況や活動状況、インシデント・アクシデントレポートの内容を議事録として保管している。但し運営推進会議委員への報告はされていない。	今後は町内会長、民生委員、地域包括職員、家族等の運営推進会議メンバーへ議事録を送るなど配布して、意見や感想を得るように工夫してもらいたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所内で起きている困難な事例等を市の研修会や実地指導を通して問題解決、より良いケア向上に取り組んでいます。	市主催の「介護のスキルアップ研修」や「実践研修」に参加している。八幡連携の会では、他病院の先生を講師にリモート研修があり、感染症予防について参考になった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を職員同士が共通認識として取り組んでいます。研修会等に参加し、参加した職員による伝達講習を実施することで、正しい知識を理解する機会を作っています。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。「身体拘束に該当する行為」、「緊急やむを得ない場合は？」をスタッフルームに掲示している。「言葉による拘束」にも配慮してケアに取り組んでいる。帰宅願望のある方には一緒に散歩する等で対応している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待となるのか、職員ミーティング時に話し合う機会を設け、日頃から相談できる体制を作り努めている。	年2回内部研修を行っている。ケアで困った時は管理者に相談し、ミーティングで話し合うようにしている。入浴や着替え時等の身体チェックは何時も同じ職員とならないように考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人制度に関する研修会に参加し、学ぶ機会を得ています。職員全体への伝達が出来ていないので機会を持ち展開したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様にご理解、ご納得いただけるよう説明をおこない、その後も積極的にお声掛けさせていただき、不安や疑問の解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やそのご家族様からの相談又は苦情等に対応する窓口と担当者を明確にし、ホーム内に掲示しております。また、ご家族様にもお伝えしており、ご意見を頂戴した時は迅速に対応しています。	面会が出来ない状況なので、電話で話したいと言う家族の要望に柔軟に対応している。職員の携帯電話による面会を取り入れているが、個人情報に触れる事もあり、ホームのテレビ電話を検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティング時に得られた意見や提案を反映させています。	職員は毎年「目標達成計画シート」を作成し、半年毎に管理者と面談し評価している。入居者と一緒に家庭菜園をやりたいとの提案で隣の空き地に畑を作った。職員の資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員には自己評価をしてもらい、何が満たされて、何が不足しているか、お互い話し合うことで明確にし、仕事への向上心を持ってもらえるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務調整をして研修会への参加支援をし、その職員が講師となり伝達講習を実施することでお互いのスキル向上に繋げています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加により他事業所職員との交流を深め情報交換することで自施設のサービス向上に努めています。	八幡連携の会等、地域の方との交流や情報交換は、コロナ禍の為にリモートで行っている。法人の病院主催の研修会や事例報告会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言語・非言語コミュニケーションを通して利用者様のニーズにしっかり耳を傾け関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向けて担当ケアマネージャーと共に、ご本人、ご家族との面談時に不安、要望を聴き取り、可能な限り取り入れるよう努めています。また、入居後もご家族へこまめにお声掛けすることで良好な関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の本人像、ご家族様の要望を加味した上で何が必要か職員間で情報共有し必要とする支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを一緒に行うなかで、利用者様には出来る事はして頂きながら生活を送っていただいています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの電話は可能な限りご本人に代わりお話していただいたり、手紙が届いた時は、お返事を利用者様と一緒に書いたりとお互いの絆を大切に関わっています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人が定期的に面会に訪れてきております。その際は本人とお会い出来るよう配慮しています。	面会や外出、買い物等が出来ない状況であり、定期的に友人が来訪する方も、今年度は電話で対応している。週2回訪問するマッサージ師、2カ月に1回訪れる訪問理美容師等と馴染みの関係を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮した座席配置をしています。また、アクティビティの時などは利用者様が孤立することなく参加でき、支え合えるような声掛けを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の「その時」にあった生活が出来るように、必要に応じ相談や支援を行うこととお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者様の話された言葉や表情から意向を汲み取っています。時にはご家族様からお話を聞き、その方にとってより良い生活を検討しています。	野球が見たいとの要望で球場に行った。塗り絵が好きとの家族からの情報で塗り絵を提供している。帰宅願望のある方がウロウロと落ち着きがない時には、声掛けし散歩に出かける等で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時には生活歴の情報収集をし、職員間で共有できるようにしています。入居後もご家族との情報交換をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の様子を日々観察し、体調や気分の変化への気づきを大切に、職員全員で把握するよう努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、ケアプランの策定、ケアの実行、モニタリング、再アセスメント、ケアプラン見直しといった一連のプロセスを本人、ご家族の希望や関係者の意見を取り入れ、繰り返し継続的に実施することを意識し介護計画を作成しています。	3ヵ月毎にモニタリングし見直している。家族に郵送し電話等で確認を得ている。転倒骨折し車椅子になった方は、下肢筋力アップを取り入れた。「ケアプランの内容を全員で理解し取り組む」と目標に掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきをケア記録や送りノートを利用して情報を共有しながら介護計画の見直しに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその方にとって必要な事は何かを考えて柔軟に支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が望む事を最優先し、どのような事が支援出来るか他事業所相談員とも検討し支援をおこなっています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時、主治医にご本人の様子やご家族の希望を細かく報告、相談し、医療連携しています。また、週1回訪問歯科を受診し、口腔ケアのアドバイスをいただき、ご本人、ご家族には安心いただける様、支援しています。	全員が協力医の往診を受けている。眼科等他科受診は家族対応である。歯科は月1回往診で、歯科衛生士は週1回口腔ケアのアドバイスがある。デイケアで受診している方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在籍の看護職、訪問看護師とは利用者様の状態について情報交換をおこない適切な受診が出来るよう、また、緊急時連絡もとれるように連携を取り合い支援をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換等の連携を図り、利用者様、ご家族が安心して治療できる環境整備に取り組んでいます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明、了承を得ています。その時々状態をご家族と話し合い、ご本人様の意向も取り入れた対応をおこなっています。	「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に家族、本人に説明している。同時に重度化対応希望書と意思確認書を交わしている。目標達成計画で「看取り介護の研修」を行うとしており、病院看護師を講師に研修を行った。昨年1名看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員同士、急変時の対応について意見交換を行っています。今後はより実践的な動きが出来るよう訓練をおこなっていきたいと思います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、避難方法と消防設備の取り扱い方法の確認、定期点検をおこなっています。地域町内会の防災訓練にも参加し、協力体制を築いています。	夜間想定を含み2回訓練を実施している。消防訓練の理解度チェックはされているが、避難訓練の成果・反省等の記録はない。昨年大雨の際、法人の病院まで2回避難している。非常食等の備蓄は3日分確保している。	訓練の成果・反省点等を記録し事後の訓練に反映するようにはしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重したケアをおこなっています。排泄時の声掛けはプライドを損ねないように配慮しています。声掛けには名前や苗字に「さん付け」で馴れ合いにならないようにしています。	トイレ誘導の声掛けは耳元で小声で行う。トイレではドアの外で待機し合図を待つ。入浴は同性介助に努めている。入浴準備や夕方カーテンを閉じる際は、ホールに居る入居者に断ってから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを尊重し、食べ物の希望や季節感を味わえるよう外出の機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や起床時間は本人の時間に合わせた生活のペースを大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やネイルケアをしていただき、気持ちも若く保っていただけるように支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや形状に対応したメニューを提供しています。食事の準備や片付けも利用者様と共におこなっています。	献立作成と調理は職員が行っている。季節に合わせた栗ご飯や筍ご飯は喜ばれている。行事食、誕生祝はちらし寿司やおはぎと一緒に作ったり、ピザや寿司の出前を取るなど食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは日々の食事量や水分量を記録し把握しています。法人の管理栄養士とも連携をとり情報交換し支援いただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援しています。訪問歯科医からの助言をいただき、口腔環境の改善に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄感覚を最優先し、トイレやトイレ経路の整備を行い排泄の自立に向けた支援をしています。	3割の方が自立し、夜間だけオムツ使用の方が5名いる。日中は排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄に努めている。トイレまでの経路に誘導灯を整備し、部屋の間違いや転倒防止等の安全を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただいたり、食物繊維を献立に取り入れて便秘予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴剤を週単位で変更したり、季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯を使い入浴を楽しんでいただく工夫をしています。入浴の時間帯は利用者様の意に沿えるようにしています。	1日3人で週2回の入浴を基本としている。週単位で入浴剤の色を変えたり、季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯で楽しく入浴できるよう支援している。拒否の方は職員を変えて誘導したり、日時を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせ、休憩や睡眠をとれるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報は薬情ファイルを作成し、職員が閲覧出来るよう準備しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に趣味、特技を把握し、本人の出来る範囲を考慮したグループホームでの役割を感じていただくことで満足感を得てもらおうよう支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じていただく外出企画を立てたり、利用者様より話題として出た場所への外出、近所の散歩など戸外へ出かけられるよう支援しています。	季節毎の外出は中止している。ペットボトルを並べてのボーリング大会や入居者に四股名を付けた紙相撲大会では星取り表を点け、3カ月毎に表彰する等ホーム内でのレクリエーションの充実を図った。天気の良い日はホーム周辺や広瀬河原まで散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、所持できるように配慮しています。職員と一緒に買い物に出掛けた時などは個人のお小遣いから支払っていただく事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは何時でも出来るように環境を整え支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けで季節感を感じていただくことを大切にしています。温度や湿度にも気を付け清潔感のある共有空間で過ごしていただけるよう工夫しています。	ホールにはテレビとカラオケがある。エアコンと加湿器で適温、適湿に保たれている。寒冷期の空気入れ替えはサーキュレーターを使用して対流を図っている。壁にはピンクの花紙と一緒に作った桜が飾られ季節を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況と、他利用者様との関係性を把握しながら思い思いに過ごせる共用空間作りに努めています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでいただいたり、ご本人様が落ち着いてくつろげる空間であるように、ご家族様にも協力いただきながら職員も工夫し支援しています。	テレビやラジオ、テーブルと椅子、ソファ、仙台筆筒等馴染みの物を持ち込んでいる。家族写真やカレンダー、自作の書道や塗り絵等を飾り、思い思いの自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には誘導灯を設置し、夜間帯などトイレの場所に迷うことなく行けるように配慮しています。		